

【病院運営領域】

＜中長期計画_基本目標＞病院資源の効率的活用による診療の充実、高い診療能力・専門性・人間性を備えた医療人の育成、医薬融合による創造的な臨床研究の推進および経営基盤の強化を通して病院機能を向上させ、以って、東北の地域医療発展の推進役を担う。

※ 本院＝東北医科薬科大学病院 若林病院＝東北医科薬科大学若林病院

中長期計画 行動目標	中長期計画_行動計画	令和7年度 事業計画
1. 診療・経営 (1)がん診療・地域医療・救急医療・災害医療・超高齢者医療等の社会的要請に対応し、良質でかつシームレスな医療サービスを提供する。 (2)医療の質と安全性の向上を推進するため、特定機能病院や第三者認証の取得を通じて医療安全・感染対策等に関わる取組・体制をさらに充実させる。 (3)診療報酬改定、消費税の引き上げ、労働法制の改正など社会的変化に対応できるよう病院経営基盤を強化する。	1)本院・若林病院の相互の発展・両院の最大活用：両院の連携をさらに深め、両院のリソースを最大限に活用し、一体運営のもと収支改善を図る。(福室・若林)	(本院及び若林病院) ・両院の最大活用の観点から病床配分及び人員配置の見直し等も進めながら、収支改善のためのアクションプランを遂行していく。また、集患の観点では自由診療や休日診療なども引き続き検討していく。 (本院) ・将来的な本院・若林病院間の病院情報システムの統合を図るため、両病院の利用者および患者ID統合の検討を開始し、可能な作業から順次開始する。 患者IDの突合に際しては、認定匿名医療情報作成。 事業者の協力を得て、名寄せ作業を進める。 また、現行システムで実現可能な方法として、本院から若林病院、および若林病院から本院の電子カルテを相互に参照可能な仕組みを構築する。
	2)戦略的な収益向上策とコスト管理手法の実践により、安定的な経営基盤を確立し医療環境を整備する。(福室・若林)	(本院) ・病院における「予算管理プロジェクトチーム」、病院における「収支改善チーム」のもと、診療科単位で収支を分析・管理できる体制づくりとともに、今後も各種費用の高騰が見込まれることからよりいっそうのコスト管理の充実を図っていく。
	3)がんゲノム連携病院として、がんゲノム医療を推進し先進的がん医療を提供できる体制を構築する。(福室)	(本院) ・がんゲノム医療連携病院として、院内の体制整備・啓発活動、地域での広報活動を行い、がんゲノム医療を推進する。
	4)特定機能病院もしくは日本医療機能評価機構認定病院の承認を目指し、その機能に応じた役割を果たすために診療・臨床研究の総合的な強化を進める。(福室・若林)	(本院) ・特定機能病院承認へ向けての院内体制の整備及び病院機能評価受審に伴う業務調整の継続強化を図る。 (若林病院) ・日本医療機能評価機構認定病院の承認を念頭に、医療の質の一層の向上に取組む。
2. 教育・研究 (1)東北の地域医療に貢献し得る良質な医療人を育成するため、臨床教育・研修機関として大学病院の使命を果たす。 (2)医薬の連携を強化し臨床研究分野において横断的、かつ融合的な協力関係を展開することにより、実用化も視野に、新しい独創的なアイデアを創出し、国内外で活躍できる研究者を養成する。	【医学教育】 1)医師の卒後教育として、臨床研修、専門医研修プログラムの拡充を図る。(東北の地域医療を支える優秀な人材を育成し、定着できるよう支援する)	・臨床研修プログラムの充実、研修期間中及び研修修了後の支援体制の整備を図る。 ・専門医研修プログラムの整備と臨床研修との連携強化を推進する。 ・積極的な広報により研修医の確保に努める。
	【薬学教育】 2)附属病院における薬学臨床実習の充実とアドバンス薬学臨床実習の構築を図る。 3)薬剤師の卒後教育および生涯研鑽の継続的な支援体制と卒後臨床研修プログラムを構築する。	(本院) ・大学病院での薬学臨床実習実施学生数の増加を図る。 ・附属病院における臨床系薬学教員による教育体制の充実を図る。 ・地域支援制度利用卒業生に対する卒後臨床研修プログラムの構築を図る。
	4)医療職及び事務職の人材育成として、院内の研修管理制度を確立する。	(本院) ・人材育成制度を基に、職員研修管理委員会にて初期研修実施部署および必須研修実施部門への年間計画提出を依頼する。提出された計画に基づいた実施状況・内容について、同委員会にて確認・評価を行う。 (本院) ・研修管理委員会の活動に参画する。 (若林病院) ・研修図書・広報・ホームページ委員会を中心に、医療の質向上に資する年間研修計画を立案。これに基づき院内外の講師等による研修を実施する。
	5)看護部門の人材育成として、特定行為研修の充実を図る。	(本院) ・各専門領域の医師が指導できる体制を強化し、受講者のニーズに対応できるよう特定行為区分を拡大していく。
	6)臨床研究支援の推進	・「特定機能病院」の指定に向け、CRCの配置、DM作業、プロトコル作成支援等により研究支援を行い、臨床研究の活性化を進める。

中長期計画 行動目標	中長期計画_行動計画	令和7年度 事業計画
3. 社会貢献 (1)医療・教育・研究に亘る大学病院の活動を社会に説明する。	1)災害拠点病院としての活動(福室・若林)	(本院及び若林病院) ・本院においては、地域の第二次救急医療機関や消防署などと連携した総合防災訓練及び地域住民向けに防災研修を実施する。また、若林病院では「災害対策・BCP委員会」を中心に事業継続計画の課題を抽出し、ブラッシュアップを継続する。
	2)健診業務の維持拡充(若林)	(若林病院) ・人間ドック・各種健康診断の受け入れ体制を整備・拡充する。 ・新規利用者数増加を図る。 ・オプション検査の拡充並びに積極的なPR活動等により健診単価アップを図る。
	3)医師派遣機能の充実化を図り、地域医療体制強化を目指す。(福室)	以下の施策を実施し、応需率向上につなげる。 ・希望診療科や希望医師等の指定の無い案件に対し、依頼内容をヒアリングして正確に把握する。そのうえでセンター長と相談し、適切な診療科へ依頼する。 ・急募案件や募集不振の案件に対し、医学部共同秘書室と連携し、募集ポスターを掲示して訴求を強化する。
	4)予防医学等活動の充実(福室・若林)	(本院) ・市民公開講座(3回)及び院内イベント(1回)の定期開催を企画・検討し、地域への情報発信を推進する。 (若林病院) ・連携先への情報発信(随時)。 ・「世界糖尿病デー」のイベント開催による啓発運動。 ・仙台市主催の「健幸づくりフェア」への参加や講演会開催等による地域の健康増進運動への貢献。